

様式【学校評価資料】

総社小学校

学校 経営 目標	具体的計画	令和3年度の達成基準	自己評価(中間)				自己評価(最終)				学校関係者評価	
			達成状況		評価	改善策	達成状況		評価	改善策	自己評価の適切さ	
			達成状況	評価			達成状況	評価			達成状況	評価
1 心 の 教 育 の 充 実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、総社つ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。 ②「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと登壇、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。(総社を愛す子供(心優しい子供)(礼儀正しい子供))	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】 ②進んであいさつができていているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	○周りの人への優しさ 児童: 86.6p ○周りの人の優しさ 児童: 87.6p ○思いやり 保護者: 85.4p 教職員: 82.7p	B	・コロナ禍で、ピア・サポート活動やSELの学習、PBIS活動等を十分に行うことができなかったため、まずはそのような活動を継続したり、行ったりする。	○周りの人への優しさ 児童: 87.0p ○周りの人の優しさ 児童: 88.2p ○思いやり 保護者: 84.8p 教職員: 85.9p	B	・ピア・サポート活動等を行うことはできたが、通常通り行うことはできなかった。そのため、今後も活動を継続して様子を見ていく。	・自己評価は「B」であるが、「A」が妥当である。 ・「児童アンケート」周りの人への優しさ「周りの人からの優しさ」の2項目においてポイントが上がっていることから児童の意識の高まりが伺える。 ・保護者についてもおおよそ85ポイントであることからAの評価に値する。			
			児童: 83.6p 保護者: 79.9p 教職員: 78.7p	C	・「あいさつをする意識」よりも「あいさつをする意味」の方を考えたい取組(写真や動画映像等)を行っていく。 ・登下校を見守ってくださっている地域ボランティアへアンケートを実施したので、集計した結果から新たな取組を考え、実行していく。	児童: 84.4p 保護者: 81.8p 教職員: 84.6p	C	・地域ボランティアへのアンケートの結果は、1回目より2回目の方が良かった。だが、地区によって厳しい意見があるのも事実。3回目のアンケートを実施するとともに、計画委員会と生活委員会を中心に、子どもたちにとって分かりやすい具体的な手立てを示しながら、3学期も取組を行っていく。		・自己評価は「C」であるが、「B」が妥当である。 ・目標とする85ポイントには到達していないが、児童・保護者・教職員ともに80ポイントを超えている。さらに、中間報告からも向上していることからBの評価に値する。 ・引き続き児童による主体的な取組みを進めてほしい。		
2 健 康 ・ 体 力 づ く り の 推 進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーマディアの取組を推進する。 ④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	③感染症対策として手洗い・マスクの着用、換気を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】 ④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童: 91.3p 保護者: 86.7p 教職員: 90.1p	B	・継続して感染症対策を行う。手洗いとマスクの着用、黙食、換気など新しい生活様式が身に付くよう指導していく。 ・学期始まりなどの区切りとなる時期に、指導を繰り返すことで意識が継続しやすくなる。	児童: 92.1p 保護者: 87.3p 教職員: 90.4p	B	・目標にはあと少しというところではあるが、継続して感染症対策を行う。手洗いとマスクの着用、黙食、換気など新しい生活様式が身に付くよう指導していく。 ・学期の始まりなど区切りになる時期や、毎休み時間ごとに注意喚起の放送をするなど、更なる意識の向上に努める。 ・学校からの配布物を通じて、各家庭にも啓発・注意喚起していく。	・自己評価はBであるがAが妥当である。 ・昨年度および中間報告よりポイントは向上している点があり、目標にわずかに到達しなかったものの、Aの評価に値する。 ・児童・保護者・教職員ともに、学校の感染症対策に関する様々な取組みへの定着が図られている。 ・引き続き、対策を行っていたきたい。			
			児童: 87.3p 保護者: 76.7p 教職員: 77.4p	B	・今後も、メディアとの付き合い方について、参観日の授業や学級懇談、個人懇談等で啓発に努めて、家庭と連携しながら取り組んでいく。 ・メディアとの付き合い方、睡眠の大切さについてメディアコントロール週間を中心に啓発に取り組む。	児童: 87.1p 保護者: 76.8p 教職員: 77.7p	B	・メディアコントロール週間以外でも、委員会の活動等の取り組みを通して、意識づけをする。 ・今後も、メディアとの付き合い方について、参観日の授業や学級懇談、個人懇談等で啓発に努めて、家庭と連携しながら取り組んでいく。 ・メディアとの付き合い方、睡眠の大切さについてメディアコントロール週間を中心に啓発に取り組む。	・自己評価は適切である。 ・メディアコントロールを行う目的や意義についても児童・保護者ともに共通認識が必要であり、今後も継続した取組を期待したい。			
			児童: 84.5p 保護者: 78.7p 教職員: 77.1p	B	・コロナ禍であり、状況をみながら、進んで運動する機会を増やすことができるよう声掛けや委員会活動等の取り組みをしていく。	児童: 84.9p 保護者: 76.7p 教職員: 82.1p	B	・コロナ禍であり、状況をみながら、進んで運動する機会を増やすことができるよう声掛けや委員会活動等の取り組みをしていく。 ・学校での活動の様子などを、通信などを通じて発信していく。	・自己評価は適切である。 ・教室等で多様な過ごし方をしている児童にも運動の機会を保障する方策について検討することが必要である。 ・コロナ禍でも対策を講じ、体育授業や体育的行事を実施した点は評価することができる。			
3 確 かな 学 力 の 育 成	【すすんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。 ⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が90ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】	児童: 85p 教職員: 80.7p	C	・授業の中で書く活動を積極的に取り入れ、時間を確保する。 ・学習の振り返りの視点を共通理解したので、継続して取り組む。	児童: 84.4p 教職員: 82.3p	C	・振り返りの視点を共通理解したことで、児童が振り返りを書きやすくなった。また「まともを書いたら振り返りを書く」という習慣が身に付いてきている。書く内容に個人差があること、指導者が振り返りの時間を確保することに課題があるが、振り返りを書くことへの意識は高まっているので、基準を85として継続して取り組んでいく。	・自己評価は適切である。 ・教職員の努力により振り返りを書くことへの意識が高まっている点は評価できる。引き続き、継続した取り組みが期待される。			
			教職員: 82.5p	A	・新学習指導要領の求める力について校内研修等で全教職員に理解を促したり研究授業を進めたりして、授業改善を目指す。 ・基礎的な内容理解が不十分な児童には個別支援を行うとともに、家庭との連携を進める。	教職員: 83.0p	A	・授業改善は常に取り組んでいく必要がある。個別支援とともに、継続して取り組んでいく。	・自己評価は適切である。 ・低学年・中学年・高学年で達成基準を設定することで適切な評価につながった。 ・気を緩めることなく授業改善、個別支援を継続して進めてほしい。			
			児童: 85.8p 保護者: 75p 教職員: 78.8p	B	・昨年度の取組を継続して行う。 ・宿題+自主学習で、目標時間が達成できるように指導する。 ・児童が目標時間を達成しやすいように、宿題の量などを学年に応じて調整する。	児童: 86.3p 保護者: 74.2p 教職員: 75.0p	B	・保護者に対して、懇談や学年通信等を通じて家庭学習の取組の充実を図るよう啓発をする。 ・教職員に対しては、宿題の量が適切かを学年間で定期的に振り返り、検証と改善を行っていく。	・自己評価は適切である。 ・今後の継続した取り組みを期待する。			
4 地 域 と も に あ る 学 校 づ く り	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員)	保護者: 81.8p 教職員: 77.2p	C	・各種の便りやホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。ホームページ担当を中心に、タイムリーなホームページの更新を行う。 ・保護者と普段からの電話や連絡帳、家庭訪問等による連絡をとり、連携を図る。	保護者: 83.6p 教職員: 78.4p	C	・各種の便りやホームページの更新、学校評価により、積極的に情報を発信する。ホームページ担当を中心に、タイムリーなホームページの更新を継続して行う。また、各学年のホームページもタイムリーに掲載していくようにする。 ・保護者と普段からの連絡帳や電話、家庭訪問等による連絡をとり、連携を図る。	・自己評価は適切である。 ・情報発信についての継続的な検討を期待する。			
			児童: 90.1p 保護者: 86.2p 教職員: 87.3p	B	・学年下校を定着させ、学校支援ボランティアと協力して、登下校の安全確保に努める。 ・校内のきまりやルールを教職員で共通理解を図って指導し、きまりやルールを守って安全に生活できる児童を育成する。	児童: 90.2p 保護者: 87.0p 教職員: 89.8p	B	・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導が自転車で学区を見回り、下校は曜日ごとに担当学年を決めて下校指導を行う。 ・校内のきまりやルールを教職員で共通理解を図って指導する。特に、①あいさつ②廊下歩行③だまって移動することについて重点的に取り組むため、生徒指導による校内放送で繰り返し意識づけを行う。 ・生活委員が廊下歩行と階段歩行についてポスターを作ったり、強化週間を計画して全校で取り組むようにする。	・自己評価は適切である。 ・児童の主体的な取組みの推進等具体的な改善策が検討されている。引き続き、児童の安全確保のための取組みを期待する。			